

下肢静脈瘤のレーザー治療をはじめます

大津市民病院では、下肢静脈瘤に対する血管内レーザー手術をはじめます。

本手術は非常に径の細い光ファイバーを静脈に挿入し、その先端からレーザー光を照射して、内側から静脈を閉塞する治療法です。

このたび本院では、最新の下肢静脈瘤治療用半導体レーザー装置『ELVeS レーザー1470』を導入しました。この装置を使用することで、従来の手術よりさらに小さな創での低侵襲な手術が可能となり、日常生活への早期復帰が図れます。

下肢静脈瘤とは

心臓から送り出され全身を巡った血液は、静脈を通して再び心臓に戻されますが、立っている姿勢の時は重力に逆らって足から心臓に血液を送る必要があります。そのため、下肢の静脈には重力によって血液が足先へ逆流しないように弁がついていますが、それらの弁が壊れると血液が逆流し、足に血液が溜まってきます(うっ血といいます)。うっ血によって血管が拡張や蛇行することで、静脈がこぶのように膨れ上がる、あるいは皮膚の内側に赤色や青色の細い血管が浮き上がる、などの症状を引き起こします。

これが下肢静脈瘤です。

下肢静脈瘤の主な症状と、なりやすい方

主な症状は

- ▶ 足の静脈にこぶができていますが、特に症状はない…
- ▶ 静脈にこぶができたほうの足がむくむ、ほてる、だるい、重い、疲れる…
- ▶ 歩行時や就寝中にこむら返り(足がつる)を起こす… などで

なりやすい方は

- ▶ 女性に多い病気ですが、男女問わず加齢とともに発症しやすくなります
- ▶ 妊娠や出産をきっかけに発症することがあります
- ▶ 調理師や美容師など、長時間の立ち仕事の方に多く見られます
- ▶ 親族に下肢静脈瘤がある場合は、発症する可能性が高くなるといわれています



下肢静脈瘤は予防と早期発見・早期治療が大切です

下肢静脈瘤は、初期症状は比較的軽いのですが、外見上のストレスで悩んでいる患者さんも多くおられます。また、進行すると難治性の皮膚炎や潰瘍を発症したり、最悪の場合は静脈にできた血栓が血流に乗って移動し、肺塞栓症や脳梗塞など、命に関わる重篤な疾患を引き起こすこともあります。

早期発見で適切な早期治療を受ければ、治療回数も少なくすみ、回復も早くなります。「下肢静脈瘤かな?」と思ったら、早めに医師の診断を受けましょう。

❖ レーザー治療を受けられないケースもあります(深部静脈血栓症や、その既往歴がある方、血液凝固異常症の方など)。まずは医師にご相談ください。

❖ 術後数日間、治療用の弾性ストッキングを着用する必要があります。

❖ 治療時間は、片足約30~60分です。入院期間および通院期間は、患者さんの状態によって変わります。